

松本市教育研修センターだより

No.2 令和4年6月10日

第1回松本市教育委員会主催 初任者研修会が開催されました！

～ 初任者の真剣な眼差し・切実な思い・笑顔があふれていました ～

5月24日(火)14時より松本市教育文化センターにて、初任者研修会が開催されました。4月に松本に赴任した28名の初任の先生方が一堂に会し、研修に参加しました。

【教育長講話】講話の中で伊佐治裕子教育長は「①『感性』を大切に～リスク管理の基本～ ②子どもにとっての最善の利益を大切に ③学都・松本とは」の3つの視点から「子どもが主人公」となる松本市の教育方針を語りかけました。



「感性を大切に」というお話をいただいて、私は今までのやり方やルールや決まりなど、そういったものをただただ踏襲していくだけではいけない、現在の情勢や目の前にいる生徒たちに合ったものになっているかどうか、そういった視点や気づきを大切にしていく必要があるということを感じました。困った時は「子どもにとって最善の利益は何なのか」その点に戻って考えるようにしていきたいです。(初任者感想)

【コンプライアンス研修】 「子どもの前に立つものとして、子どもに恥ずかしくない大人(教師)・子どもに憧れをもたれる大人(教師)」となることへの決意をあらためて確かめました。

【講義:旧山辺学校校舎の教材化と社会見学のあり方について】

旧山辺学校校舎上條直利館長のお話から「地域素材を教材化する大切さ」と「何のためにそこを見学させるのか、何を見せたいのかを明確にする」重要性を学びました。その後、隣にある旧山辺学校を見学し、館内の説明を受けながら、松本の先人の教育にかける思いの深さに触れました。



旧山辺学校で説明を受ける先生方

・社会見学などを行う際、「何のために見学に行くのか、そこで、何を見て学ぶのか」ということを明確にすることの大切さを感じました。初めての計画だと、つい前年と同じようにやりがちだと思いますが、教師自身がしっかりと目的をもって計画をしていきたいと思っています。その際に、教育長先生のお話にもあった「感性」をしっかりと働かせて計画を立てていきたいです。(初任者感想)

最後に初任者同士が、**お互いの思いや悩みを語り合うグループ協議**を行いました。「人と人が触れ合う研修の大切や仲間づくりの大切さ」を実感しました。



グループ協議で熱心に語り合う先生方

- ・グループ協議では、同じように悩んでいる方のお話を聞いて、私自身も「悩みながらいいんだ」と思えたことと同時に、また明日から頑張ろうと思えることができました。
- ・グループ協議では、やっぱり対面で同じ初任の先生と話す機会はとっても気持ちが楽になると感じた。同じ悩みやうまくいったことを共有できてよかった。
- ・グループ協議では、今、私が置かれている状況と同じ先生方とお話できて本当によかったと思えました。心がとても軽くなりました。

教えて！
本田先生！！

第1回松本市発達障がい児 相談支援研修会



5月26日（木）信州大学医学部子どものこころの発達医学教室教授の本田 秀夫 先生をお迎えし、「教えて！本田先生！！Vol.3」と題してオンライン講演会が行われました。

司会を松本養護学校 教育相談員の宮内 かつら先生にお願いし、事前に皆さまからいただいた質問にお答えいただく形で進められました。本田先生のお答えに対し、宮内先生が園や学校での支援をイメージしながら更に掘り下げてくださり、お話に引き込まれてあっという間の1時間半でした。

当日は、幼保園、各学校、福祉関係者等多数の方にご参加いただきました。また、講演を納めたDVDの希望も多数いただいております。多くの方に本田先生のお話が届くことを心から願うところです。子どもたちのために、引き続き、温かなご支援をおねがいいたします。

講演会をほんの少し
おすそ分けです😊

Q1 保護者は「みんなと一緒に活動してほしい」と強く要望しますが、現状は難しく対応に戸惑うことがあります。

A1 みんなと一緒になくてもいいんです！『社会性＝みんなと一緒に』ではありません。『社会性＝人としてどう生きるか』という視点が大切です。どうしても参加させなければ、視覚的に構造化し『自分のやることをやっていたら結果として集団活動に参加できていた』となるような仕組みづくりをしましょう。

大多数がやりたい活動ではなく、時にはその子が興味を持っている活動にほかの子を誘ってみるのも大事。少数派にも目を向けましょう。



信州大学 本田秀夫先生

Q2 クールダウンなのか…きぼっているのか…どう対応したらよいでしょうか。

A2 「クールダウンしたい」と意思表示できることは素晴らしいこと。本人が訴えてきたら（訴えていなくても必要に応じて）クールダウンさせた方がいいです。読書やタブレットなど余暇活動をする事自体がクールダウンです。静かにじっとしているだけがクールダウンではありません。走る子もいます。今一番やりたいことをするのがその子にとってのクールダウンなのです。

参加者の声

- ・本田先生と宮内先生のタッグでの進行、補いがわかりやすくてよかったです。
- ・保育園～中学生までと年齢幅がありましたが、基本的な部分は変わらないと認識しました。
- ・関わり手も環境の一部なんだということを改めて感じました。



松本養護学校 宮内かつら先生

田中寛人梓川小学校校長先生(松本市校長会特支担当)より

子どものアセスメントをしっかりとり、課題を的確にとらえ、適切な支援につなげていくことが大切だと、あらためて感じました。本田先生、本当にありがとうございました。